



本草綱目詳說

十四

世三至

雙
937
14



本草綱目果部目錄第三十一卷

果之三 夷果類三十一種



荔枝 龍眼 龍荔

檉欖 木威子 菴摩勒

毗梨勒 沒離梨 五斂子 即陽桃

五子實 榧實 海松子

檳榔 大腹子 椰子

魚漏子 即波斯杏 栳榔子 蘇木麪

波羅蜜 無花果 文光果 夫仙果附 阿勃勒

沙棠果 探子 麋目

都楠子 都念子 都咸子

摩厨子

齊墩果 德慶果附

馬檳榔

枳椇

韶子

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

本草綱目譯說果部第卅一卷

果之三 夷果類 三十一種

荔枝

リナアニ 荔枝 リナイ 音轉ス

嶺南閩中之煖國生ス日本絶テナレ在品類多シ
百川字海中茶表荔枝諸詳之二十餘品ト云今
日本へ来ルモノハ集解所謂白曝荔枝ニ来テ三日ヲ
経レハ味変スト云然ルトキハ日本へ来ルモノハ其味得
テ知ヘララスニ其形龍眼ニ似テ其殼アリ枳椇ノ如シ
集解説トコロノ形状ヲ觀ルニ殼朱色ノ肉潔白ナリ
日本へ来ルモノ外及茶褐色肉黒赤核ハ枇杷核ノ
如シ集解核荔枝ハ上品ノ肉多ク核小ナリ今後

荔枝ノ中ニ雜リテアリ故ハ異ルヲナシ。古ニ荔枝樹後
ルヲアリ然レテ日ナキニハ云ハセズ

龍眼

和名ナシ故ニ和名ナシ倭俗コレヲ龍眼肉ト云荔枝ヨ
リ小ニテ散ニ攸ナリ形圓ニ專ラ葉用ニス大小相雜リ来
大小名ヲ異ニス大者ヲ虎眼ト云之次ヲ龍眼ト云之
次ヲ人眼ト云之次ヲ鬼眼ト云之今倭ルモノハ龍眼人眼
ノ中ナルヘレ以上ノ諸名泉州府志ニ見エタリ唯人眼ノ
名ハ閩書ニ見タリ。今和名龍眼ト呼ブモノハ大明カ
シト云モノハ山別府島ニ今津葉園ニアリ又中立賣
後藤香四郎ノ庭除ニアリ得名未詳 櫛子ノ種

類ナルヘシ葉櫛子ニ葉ニ似テ鋸齒ナシ微ク長ク尖ラ
徒テ龍眼ニ似タリ故ニ誤リ傳テ和名龍眼ト云真ノ
龍眼樹ハ櫛子ニ似テ楊梅ニ似タリト云之因中山
花木図ト云卷軸ニ見タリ之画真設色最觀美ニ

龍荔

龍眼荔枝ヲ相兼タルモノ甚奇怪ニ

橄欖

和名ナシ舶来アリ實大サ一寸許兩頭尖リテ極ニ尖
如シ外皮青レニセ核ニ穢アリ核ノ内ニツノ孔アリモ
孔中ニ仁アリ生種子ヲ下セハ種活ス初生ハ胡椒子
葉ノ如ク長ク冬ニ葉兩對ス後生スル葉ハ

木樓子葉ノ如シ京所ニテハ種生ハ後スレモモトモ
テ冬枯ル長崎ニ大木アリ冬ハ草薦ニテ包ムト云リ
云テテ結バズト云々近來四國ニ橄欖アリト云之ヲ見
皆ホルトカルナリホルトカルヲ記列ニ言ツクト云澤名
膳ハ樹細目香木類在解品類及ク未詳和名ナ
キ故ナリ

在解 梓柳 コフナキナリ

木威子 未詳

典籍稍便曉ニハ鳥攬ノ仁ノトス鳥攬ハ上ノ橄欖ノ
在解ニ見ナリ

菴麻子 未詳

在解 定陶瓜 事物紀原ニハ西瓜ノ目トス

此梨勒 未詳

此本條ノ下ハ木部訶梨勒ノ在解ニ見タリ此モノヲ
以テ訶梨勒ニ偽ルト云ヘリ稜ナリ形榧ニ云ノ如クモノ
即此モノナリ今舶來訶梨勒ノ中ニ雜入ス本ト訶
梨勒ハ六路ノモノヲ以テ上品トス六路トハ六ツスケノ
ヲルナリ八路九路ニ至ルモノハ雜路訶ト云テ下品ニ

沒離梨 未詳

今刊行本版此一條新校正則閱干證類本ナ附卷
末膏双目次補入于此

五欲子 未詳

五子之實 未詳

榧 實カヤ 未ラ致相ニ用 ノルテロウルン也

俗柏字ヲアヤト訓スルハ誤ニ柏ハカエト訓シテ側柏ノ

ト之又百十ノ百ニ双ニ栢ニ作ルモノハ栢ノ俗ニナニ榧山

中ニ多ク又庭除ニ栽ユ古野ニハ大木多ク牝牡アリ牝ハ

實ヲ能ク牝ハ惟花アリテ之ヲ能ハス牝ハ枝椽ニ垂ル

牝ハ上ニ起ツ牝牝ノ下ハ集解ニモ見エタリ上ニハ古野ニ

テハ千ノコト云一名ニロカヤ一名ニアナカヤを異及

アレモ自ラ版殼内ニ着ク仁色白ニ故ニ名ク大サ一寸許

設左卷ノスデアリ此モノ養蠶ニモアリ江列後井郡ニモ

産ス然レモ思ハ短クナ長ナニ葉皆尖ニ岐アリテ節

刀ノ形ノ如シ一種先岐アナキモノハイヌカヤト云モノニ

実形円シ山列貴船辺ニモアリ此物下ニ食ヘカラス

實ヲ歴シ油ヲ採ルモノ思ニ一名ベ、ガヤ又ヒ、又チニ

カヤ又ハリメカシ又ホロメカシト云皆イクカヤノ下ナリ

小木ニテモ能ク之ヲ能ク集解注類曰神農本草ナリ

子即粗榧ト此レイヌカヤナル也

海松子 朝鮮ニツノミ カラニツノミ

朝鮮ノ名産ニノ来聘ノ時多ク献ス大サ豆ノ如シ果

ニ充テ、食ス即五鬚松ノ子ニ相類扁ニ長シ葉ハカ

松ノタチニノ強ク長シ世人朝鮮種ヲ傳テ載ユ日本自

然モモクニ信列上田ニカラニツノ松ト云ルアリ也

海松多産コレ自野生之海濱山中其アリ又越後海濱多産之。又普通ニ五葉ノ松ト呼フモノハ赤松ノ類ニシテ葉軟之佳不鮮ノ美陰松是之凡テ五葉ノ松ノ木皮ニハ絶テ難ク甲ナシ

檨樹

廣東新語曰未熟者曰檨樹青者及熟之曰檨肉亦曰玉子則廉欽新會及西粵之交趾人嗜之熟而乾焦連殼者曰栗子檨樹則為常陽江陽春人嗜之以塩漬者曰檨樹鹹則廣列度人嗜之日暴乾乾心小如香附者曰乾檨樹則惠潮東莞順德人嗜之嶺南人產物之初產十三南方人戒之皆食用之佳不鮮得扶海蒜与瓦屋子灰同咀嚼之則菜肉中其之ト今茶家者流キニテテノ香金ト云モノハ中其ニテ此物ヲ貯ル器之檨樹二種アリ大ニ形扁小ニハ大腹檨樹之小ノ上尖ニモノハ雞心檨樹次下大腹子註各註ニハ真檨樹之葉入用ニシ又皮ハ二物通用ノ可之然レモ大腹皮檨樹皮ト別ツトキハ自ラ別ニ集解山檨樹ハ雞心檨樹ニ

大腹子

檨樹大腹子ノ二種李時珍之ヲ分別スルノ最明白ナリ又本草原始ニ因アリ註別

椰子

通名

ヲ、リヨカラツクス

俗ヤシヲト云ハ誤ニ子ノ由ラニ古用ニズ唐人多將來ニ日
本ニナシテ其土ニ生レテ南ヨリ外ニナシ僊國ノモノナリ
集解所記ノ形状ヲ觀察スルニ木高太ニ枝ナリ椽
ノ如ク木頂ニ葉アリト見ユ廣東新語曰花如千葉芙蓉
葉白色ト子ハ葉同ニ房ヲ成メ生ズニ房至テ大ニ
一房中ニ三十實許アリ一房三十實ト云モノ是ニ
此房中ノ實ノ分レテ海上ニ漂流シ来ル薩摩能列
野若狭伊智等ノ浦へ流シ来ル長トハ八寸許徑リ六寸
許形圓アリ又ニ枝ノ如キアリ褐色前後尖ル皮ヲ去レ
内ニ綿アリ大腹厚ノ如シ綿厚サ一寸許此綿ヲ椰衣ト

云廣東新語此ノ椰衣ヲ去レハ内ニ核アリ形ヲ桃核ノ如ク大
小殊ニ如シニ上テ堅シコノ殼ノ厚サ二分許之ヲ磨スレ
ハ黒クシテ白キ班文アリ今杯ニ造ルモノ是ニ上ニ隔ミ
ニツツアリテ人頭ノ如シ越ニ頭ノ名アリ白肉アリテ
殼内ニツク肉厚サ五分許之中ニ將水アリ酒ノ如シ廣東
新語ニ之ヲ椰酒ト云テ將水中椰心アリナキ桃ノ如ク白
色廣東新語似銀桃ト云内酒心共ニ食用ニスロ其土
ニテハ葉ヲ採リ笠ニ作り席ニ織ル

附錄

青田橙 未詳

柑頭酒

天竺ニテ佛經ヲ書スル貝多羅樹ノ子ニ此子ノ内

ミミ酒アリ之ヲ樹頭酒ト云貝多々維ニ葉ヲ長崎ニテカチ
ヤント云葉形一万年者ノ如シ葉心ニヒアリ詩長ハ三四尺
色白ノ光得アリ遷人將來ルニ中ニ甚下面細字ヲ
彫刻シタルアリモ字一種ノ國字ニモ遷人ニ讀ム
能ハズ宋學士全集ノ中渤泥國入貢記曰食無器
皿以竹編貝多々葉爲之食畢則弃之者書無筆札
以刀刻貝多々葉行之ト之ニ由テ觀ハ渤泥國ニテ如此
スルナルヘシ又貝多々葉ニテ序ニ織ル一東西洋考ニ見エ
クリ今得後ノアシベチハ疑ラクハ貝多々葉ヲ以織爲ス
モノナランモトアシヘラト云ハ凡織爲ス序ノ葉名ニノ
一種ノ名ニアラス今日存ニテ別ニ一種ノ水草ヲ以テアシ

ヘラニ充ルハ芭蕉ニモ一種ノ水草ハ蒲ノ類近キモノ
ナリ

嚴樹酒 未詳

無漏子

南方煖國ニ能長ス花ハ長ハサ一尺餘幅二三寸辨多ク
重リ生ス別ニ言フ生スニ言夫附着スル茎ハ殆ト小葉
ノ如クニナ褐色ノ毛茸アリ言ハ形雞卵ノ如シ皮朱色
乾ハ皺アリ木ニ雌雄アリ雄ハ唯花アリ雌ハ花實トモ
アリ内ニ核アリ白色ノ堅シ核内ニ肉アリ色白シ琉球
ノ産ハ葉幹トモ至テ小ニ大鳥久米島ノ二知ニ出ツ
今種樹家ニタメリアリ之ヲ米田蕉ト云但ニ雜

佳示解

タルモノ
紫砂アリ

模頌曰小塊紫砂

ニヤウエシレノ未ダ綿ニ添サルヤニトキ
ノ塊ナリ與縣諸ト同物ナク本ノ脂凝結スルハ縣驛湯ニ凝ル所

枕椰子 ツクノミ

南方ノ産ニ和産ナシ琉球種薩摩ヨリ来ル徑リ二三
尺高サ五六丈ニ至ル上頭ニ葉ナリ京師へ来ルモノヲ見
ニ世ト鉄魚ノ如クツク必ス椽桐葉ノ如クニ團ニナラス
幹ニアリ椽ノ如クツクニ黒シモヲ採リ刷クニ作り熟前テ
多クク實ニ碎テツリハケト云水ニ値テ久ク腐ラス此ノ木ヲ
斫レ皮中白麩アリ善ク土ニテハ麩ヲ採リ食用ニス故ニ
釋名ニ麩木ノ名アリ

木中粉 未詳

木中粉アリ食用トナスモノト云

波羅蜜

嶺南ノ産ニ和産ナシ厚皮ニナシ花ナリ実ヲ結ブモ
ノナリ廣東新語曰以刀斫樹皮乳出凝不流此所生
子一斫一實十斫一實故名刀生果又曰其根或
行旁舍則實潛結地中熟而地裂開香始知較枝
幹所生者尤美ニ

魚花果 イナバク 西國ノ名 ウドンケ

市中ニ多クニ構ノ如シ葉モ大抵構葉ニ似タリ茎葉ヲ斫
レ白汁アリ葉ニ砂アリニツ許刻缺アリ細鋸齒アリ葉
間ニニエテ生ス大サ一寸許圓ノ顛平ニ花ナクメ実ヲ

結フ故ニ無果花ト云未蓮實ニ相似タリ花ハ全クナキニ
非ス二三月頃葉同ニ細白花ヲ開ク至テ小ニ見エ難シ
故ニ無花ト云又初ノ青ク糝ノ此赤色味甚甘中子
堅西米子ノ如シ又青トキ采リ味噌漬ニ食フ。又
甄別ニハシロイナ、クト云モノアリ色全ク白キニ非ス
初ノ青ク糝ノ青色ナシ減ス故ニ白色ノ如ク見エ様ヲ
研リシテ拵セハ佳レ

佳木解

花極遠カナノハ刻缺ノタチチ云 **木鏡** 木蓮ノ実

附録 文光果 未詳

和名 厚皮ニナシ

天仙果 イヌヒハエノヒハ 新説 正ノニハ 大和 正ノヒ日エ

コノノキ 大和 イチノク 大和 正ノヒ 無花 早ト同名

種樹家之ヲ龍眼ト云甚誤之小木ニメ高サ六尺許枝
ヲ掃セハ佳レ信ス大和近江等ニ多ク栽テ垣ニ作ル葉
形辛夷葉ノ如ク厚子ノ砂ナシ葉葉ヲ研レハ白汁アリ
甚粘ル 葉葉同ニ花ナクノ実ヲ信フ形無花果ノ如ク
ニメ小ナリ木樨子大ノ如ク多ク生ズ色紅ニ小似採テ
食ス此ニ入ニ内ニ仁ナリ細子アリ堅西米子ノ如シ
古度子 ヒヨシノキ イヌ 大和 正ノヒ 泉 別樹ニ
人家庭陰ニ多ク種ニ大木アリ六尺許ノモノ多クシ
高ナナルハ文許ニ至ル女貞ニ似テ葉互生ス厚子ノサカ
キノ葉ノ如シ葉ニワクレタルモノ生レ後モワクレタル

トコロ破レテ虫出ツ枝ノ末ニ穴ニ似タルモノヲ生ス形桃
如メ中空白粉アリ味足全ク虫ニ後自破^{厚ク穿}テ虫飛
去ル決メ穴ニ非ス味酸シ五倍子ノタチノモノニ又虫部
敷子ノ下ニ敷子木アリ而此物ハ又厚ニ敷母系ア
リコレモ又ヲ信ヘハ中ヨリ小虫出ツ至テ小虫ニ田ノ畔
ニ生ス江列守山ニテイナゴクサト云

阿勃勃

南唐サイカシ 南唐サイロケ

和差^{ナシ}ナレ江七人乾テ齋シ来ル葉四寸ノ長サ二尺
餘形ハコ捉燈ノ棒ノ如シ葉散色中膜ヲ隔ツ隔内
各一子アリ四扁シ大サ一分半許色ハ青黄ノ色ニ同
シ

附録 羅望子

朝鮮モクニ

古ニ傳後アリ近年後ラス中子八分許大ナルモノ一寸
近シ色深紅横ノ方ニ肩アリテ穴半ヲ取卷陽ヲ受
タル海上へ漂流シ来ル採^{キンネキクノキツク}テ荷包墜子トス眉長キ
モノアリ短キモノアリ一種筑前海濱ニイツマノハヤナ
タニメト云者ナリ夏生葉四メ先尖ラスアチナス
初生ノ葉ニ午葉ノ如シ秋回寸許ノ葉ヲ生ス刀ニ
英ノ如シ深紅色中子小ナリ紅色ノ葉ニ葉ヲ蒂フコレ
羅望子ノ品類ナリ江列熊野ニモアリ煖國ノモノニ

沙棠果 未詳
棕子 未詳

麋目 未詳

麋ハ本ト獸ノ名和彦ナレ唐ヨリ麋反テ後ス之ヲ
井シテント云廣原新語作麋木

釈名 鬼目 六種アリ一ハ此本條二ハ石南云三ハ
羊蹄菜四ハ白英子五ハ檮六ハ凌雲月夜並ニ旧名
ニ多ク

都梅子 未詳

都念子

ウツバ子

ゴキノコ

ハゴノキ

タカラ

ニシテ

ノ歌ニフダラクヤ無動寺山ノタカラニシ
スヘテハウヲニミサリユリスレ

天台山無動寺辺ニタラキアリ木高一丈許ニ至ル小ナル
モノ四五尺実ヲ能ク一円ニ葉ハ小ニユミニ似テ鋸齒ナリ

先尖ル後截テ活レ難レ枝々未毎ニ実ヲ生ス大サ南

天燭子ノ如シ上ニ葉ハ如キモノ四枚アリ形女子ノ玩ブツ

クバ子ノ如シ塩蔵シ湯トツレ酒芝ニ充ツ味淡シク微

ク油ニテアリ

佳示解

乾梯ハ君邊子ノ一ニ

都威子

未詳

都厨子

未詳

附録 齋塚果

ナシヤノキ

ロクロキ

山中ニタラキ洛東祇園ノ後林中ニ多シ高ク大餘葉子

梅葉ニ似テ鋸齒ナレ四月頃花ヲ開ク柚ノ花ニ似テ

葉間ニ下ニ垂スタクワリ白ニ色ニノ錢ノ大サノ如シ花後

實ヲ結フ楸子ノ如シ秋熟ノ黒色ヲ帯フ白粉ヲ着ルカ
如シ枝中仁アリ油多ク柝巨キモノハ傘ノ木トシ細キ
モノハシカイ鉤トス又葉ヲ攸リ河中ニ流シ以テ魚ニ食ス
ヘシ別ニ一種九列ニ千サト云モノアリ葉大サ楸葉ノ如シ
大村ニ貴クヘシ詩 得名未詳和名同ノ物矣之
徳慶果 未詳

謂子 未詳

假不辭 藤部子 和名同ノ物矣之

馬槲榔 未詳

青ハ後ル今ハ後ラス長サ二三寸下ニテ巨サ二三寸上ノ細
シ及アリテ之ヲ包ム者皮質極ノ如ク形ニコモノ如シ破

内ニ雞心楸榔ノ形ノ如キモノアリ文理ニ楸榔ニ似タリ

枳椇 ケンホナシ ケンホナシ ニシホナシ ニシガボウ 本名

ア、カで 市部

多アルモノニ香向木ニナル自沙生ハ深山ニアリ葉ノ形ヲ
如クニ大ナリ細鋸齒アリ毛茸アリ又葉ニ歧ナキモノ
リ十月頃實熟ス小枝ニ多クツク中子肉上ニ露出ス
肉味甚耳ニ酒毒ヲ解スを好ム

本草綱目卷三十一

雜類

本草綱目目錄三十二卷

果之四 味類一十三種

秦椒 蜀椒 崖椒

蔓椒 地椒 胡椒

畢澄茄 如山胡椒附 吳茱萸 食茱萸 即辣子

鹽麩子 咸平酸角鹹草附 醋林子

茗 即茶 自丰蘆

本草綱目果部第廿二卷

果之四 其類一十三種

秦椒 フユサンセウ フダシサンセウ

諸説アリ 任不鮮 稷黍ノ説ハ昔々ノ食用ノ山椒ニ未タ稷
ナラス 互ケフユサンセウヲ以テ之ニ充ツベシ フユサンセウハ
山列嗟城ニタケシス 貴州白河ニ開クアリ 大ナルモノ一
丈許ニ至ルタリ ハ小木ナリ 葉ハトヨウフケノ如ク 又
竹葉ニ似タリ 面背ニ刺アリ 冬ヲ経テ凋ニス 夏ヲ経テ
葉間ニ叢生ス 大サ食用ノ山椒ノ如シ 香味共ニ任ナ
ラス 冬ニ至リテ夏ニ至ルニ任不鮮ノ類ニ任不鮮竹葉椒アリ
也ナリ

本草綱目果部第廿二卷
果之四 其類一十三種
秦椒
...

蜀椒

アサワラフガンセウ アサワラハ但馬ノ地名ナリ

アサワラフガンセウハ丹波ヨリモ出ツル京師ニテモ種ハ
往生ズル葉ハ青クノサシセウニ月ノ大ニ土用フテノ葉ノ
大ヤノ如シク大ニサシセウニ倍ス味甚烈シ上品ニ
若別産野ノ花ニ上品ノ朝倉ニ月ノ中葉ニテハ蜀
川ノモノヲ上品トス 略蜀椒川椒ノ名アリ。昔ノ食用
ノサシセウハ中葉ニテ厚ニ椒ト呼ブ 和名ハ山別馬ヲ
上品トス 雌雄アリ 雄ハ花アリテ実ナレニサシセウト
云 雌ハ花ナクノ実アリ又木及テ採リカラカト云テ
食用ニス 雄ニテ之ヲ採ルナリ

崖椒

土椒ハ次ノ崖椒ナリ

崖椒

イヌガンセウ ナリ 和名

山野共ニクメシニ三尺ヨリ一丈許ニ至ル葉ハ青クノ椒似
ソリナク細ク香辛相 似タリ 略 俗エガンセウト云
葉面黄クテテ色黄シ 枝ノ末コトニ傘ヲナレテ
花ヲ開キ 撥種ス 花後実ヲ結ブ 椒実ニ似タリ 中ノ子ニ
黒シ 食用ニナラス

夏椒

未詳

怒菴ハ此ノ崖椒ト月物トスレモ未々 總ナラス 正字通
唐本草椒夏生スルモノ一種アリト云ヘリ 是ハ本條夏
椒ニ非ス 食用ノ椒ノ夏生モノナリ 在 和名ナレ

地椒

未詳

本草水楊梅也 各地椒年此日在

附方ニ地花椒ノ名アリ在 和産ナレ

胡椒 ロシシウズニ在

和産ナレ瘧疾ノ証ニ人々多齋来ルニ宜黒色散アリ中
白仁アリ辛味至テ烈ニ瘧疾ニテ青キモノヲ採テ蒸シ
色黒カラシム故ニ新キ子ヲ下シテモ能テ治セズ夏吐ニメ
葉同キモノト見ユ山列寧作興正寺ニ胡椒樹アリト云テ
今人々種ニトメ貴ニ置ス胡椒ニ非ズ白瑞香ニ紫瑞
香ニハ子ヲ結バズ白瑞香ニハ子ヲ結フ色赤ノ形状胡
椒ノ如シ乾セバ皺アリ味辛シ香ニナレ毒アリ之ヲ食
ヘハ人ヲノ煩悶セシム

畢澄茄

和産ナレ瘧疾ノ証ニ胡椒ノ種大ニメ小葉アリ味辛シ
胡椒ニ代用テ可ニ今外科ニタクノ用ルモノナリ

附録 山胡椒 未詳

吳茱萸

九月ニ用ルトコロノ茱萸更ニ大和存性 茱萸ノ枝ニハツ
ミヲ用ユトスヘリ 註ニリミハ胡椒子ノ存性ニ草部中
種ヲ来スルシヨクシ京師ニモ多生ス又和産モアリ小
木ノ大木ニナラス 胡桃葉ノ如ク小ナリ鋸齒ナシ又春
皮葉ニ似テ長シ且臭アリ辛ク香ニナラズ葉タリ
葉梢頭ニ花ヲ開キ傘ヲナス産椒ノ如ク黄白ニ花謝
ノ葉尚存ス此等直ニ葉用ノ吳茱萸更ニ別ニ宜ク

徒アニ非ス楸シイナ種ニ之中稀ニ楸ノ如クモノアルアリ近
年防列母岩園ヨリ多ク出ス其大ニ五ツニ分テ大ニ一
分許得也モ少シク黒色ヲ帯フ又産野ニモ自然生
クアリ言ハヒテコアラト云今舶来ノモノハ細小ナルモノ
ニメ之ヲ上品トス粗大ナルハ下品ナリ

食茱萸

オホサンセウ カラスノサンセウハナブレ

京師近山所ニアリ泉涌寺山上ノ醍醐北野石近馬
場ノ西ニアリ皆大木ニ胡桃葉ニ似タリ細鋸齒アリ葉
背白セテ葉ノ末コトニ笑白花ヲ開リ秋
稀ニ之ヲ結フ崖樹ノ如ク近隣ニ種生アリ初生
刺多シ大木ニナレハ刺ハ短シ身好テ之ヲ食フ故ニ

カラスノサンセウト云

壁ヒシ蕨子

スリクダ 蕨子 ステ差係 アカヘソ 醍醐

勝軍木

カワキ 新柱ニサイハノキ ノウルニ江戶

又ルテハ河原ニ自然生タレ漆ノ類ニ鋸齒粗ニ漆ニハ鋸齒
ナレ産下解ニ直葉ト云ハニタヒバノノニ葉ノ下小ナル葉前
羽ハ如キ葉ヲタレテ直葉ト云又枝ノ末丹ニ種ナレニハ
細白花多クツツク花後ニ葉ヲ結フ多ク生ノ下ニ重ス之ヲ
採リ乾セハ皮 白粉アリ故ニ釋名ニ木柱ノ名アリ木爲
一丈ニ至ル多クハ小木ニ云ニ堅キ枝アリ種ノ葉得也之
此木之ヲ経テ虫蛀ノ葉アリ枝葉共ニ生ズ蕨子木ニ生
スルカ如シ之ヲ五掃子ト云虫部ニ詳ナリ

附録 咸平樹 未詳

嚴角 未詳

鹹草 八丈草 大和草 アシワバ トウタイ人考

イヌサイキ 海客人考

モト八丈草ヨリ来ル今ニハ多ク市中ニ種ニシテ

トニ似タルクサニ茶葉ヲ折ルハ其汁アリ八丈草ニシテ

トコロノ柳條節ヲ俗八丈草ト呼フ漆色ハ此汁ニシテ

漆タルモノト云ヘリ三年ニハ花ヲ開キ実ヲ結ビテ

有根枯ルニ至ル形ニウトニ月ノ大ニ

醋林子 未詳

摩解形状ヲ説ク下詳ナレモ本邦新ノ如キモノ未ク

コレアルヲ見ズ尚追テ考ヘシ

茗 通名 ノサニシクサ

釋名注 種頌曰早采ヲ為茶晚采ヲ為茗ト山列

宇治末茶ノ名産ニ江列信濃並尾ノ名産ニ之位

諸列ニ名産アリ列士ニヨリ製茶ヲ突ニス九列播磨辺ノ

茶ハ遠京師ノモノニ突リ凡テ茶ハ嫩芽ヲ采テ上

品トス葉長スルモノヲ下品トス中葉ニテハ上品ノ茶

ヲ水揀茶ト云事林廣記曰水揀茶即社前者 社前ハ

前ヲ云早 生揀茶即社前者 社前ハ 春社

者 雨前ハ穀 雨ノ前ヲ云 茶色茶即雨前

白平蘆 二カチヤ 二カキ トウチヤ

自然生ノモノ深山ニアリ上ノ茗ト同物ニ味至テ茗ニ
葉大ナリ天ムロ山ニモアリ

本草綱目廿二卷終

本草綱目果部目錄五十三卷

果之五

甜瓜瓜蒂

嬰菓即野葡萄

沙糖

果之類

蓮藕

芡實即雞頭

瓜類九種

西瓜

獼猴桃即麻梨

石蜜

水果類六種

紅白蓮花

烏芋即蒟蒻

葡萄

甘蔗

刺蜜補齊附

附錄二十三種

芡實即菱

慈姑

附録諸果 細目二十一種拾遺一種

天略之

本尊譯記果部第廿三卷
果之五 藏教九種
瓜 カラウリ アケウリ 西国 アミウリ ニクハウリ 在野
中葉ニテ厚ニ瓜ト称トキハ甜瓜ノ下ニ本邦ノ産深列
真桑村ノモノヲ上品トス 在村名ヲ假リテ瓜ノ名トス
在瓜長サ六寸径一寸半ヨリ二寸許ニテ甚細ク皮緑
色熟ハ黄赤色味を優レリ 京師ニテ此種子ヲ下ハ
在年ハ此瓜ヲ結ビ翌年ヨリ皮ノ赤クハトナル
中葉ニテハ当山ノ四明村ト云トコロノ甜瓜上品ノ深
列真桑村ノモノト月物之ヲ蒜同瓜ト云 日天ノ京師
ニテハ谷川ト云ラ上品トス 皮ノ黄斑アルヲ上トス 黄斑ナ

本尊譯記果部第廿三卷

果之五 藏教九種

甜瓜

カラウリ アケウリ 西国 アミウリ ニクハウリ 在野

中葉ニテ厚ニ瓜ト称トキハ甜瓜ノ下ニ本邦ノ産深列

真桑村ノモノヲ上品トス 在村名ヲ假リテ瓜ノ名トス

在瓜長サ六寸径一寸半ヨリ二寸許ニテ甚細ク皮緑

色熟ハ黄赤色味を優レリ 京師ニテ此種子ヲ下ハ

在年ハ此瓜ヲ結ビ翌年ヨリ皮ノ赤クハトナル

中葉ニテハ当山ノ四明村ト云トコロノ甜瓜上品ノ深

列真桑村ノモノト月物之ヲ蒜同瓜ト云 日天ノ京師

ニテハ谷川ト云ラ上品トス 皮ノ黄斑アルヲ上トス 黄斑ナ

キハ下品ニ又皮白色大ナ甜瓜ニ同シテ能路ナク黄斑
モナレ南都ニ多ク種ユ方言タムラウリト云京師ニテ
ホニテシウリト云李時珍説白團是ハ多用瓜蒂ハ
甜瓜蒂ニ瓜未熟モノ蒂若ノ用ニ互ニ種スルモノ甜
ノ古カラス種頭設入葉尚用早青瓜蒂為良ト
越前ニ子ズニウリト云アリ形状儼列直奈村ノモノニ
同シ皮淡綠色ニ黒ニアリ故ニ子ズニウリト云嫩ト
キ芝ヤク採レハ夏苦シ瓜蒂ノ上品ニ熟スレハ味耳ニ
ノ甜瓜ニ優ル京師ニテ此種子ヲ傳テ種ルニ此ノモノ
ニ優ラス

佳下解 李時珍曰浙中一種瓜ニコレハ南瓜ノ子ニ同シ甜瓜ノ
子ニ非ス葉部南瓜ノ子ト見エタリ也此ハ瓜ノ子ス

西瓜 スイクハ 善音ノ稱 セイメンチイトロシ 聖名曰

回大ニノ皮蒼綠色ナリ又一種皮白キモアリ津輕ニ
出ツ京師ハ未タ未サス傳名月明瓜 本ヤ 又山列木
津ハ皮黄ニナルアリ伊宿ハ皮熟ニ黄ナルアリ之
中ニ一種アカホリト云モノアリ 北名 子淡赤色上品ニナ
色黒キモアリ又黑白相雜タルハ玳瑁子ト云 西史 又一種
ナカスイクハアリ市ニテ南系スイクド云熟紅色厚青
白色味を瓜之李時珍説長至二尺者ト是之

葡萄 エヒ エヒカツラ 今通名
實熟ハ此系黒色海蝦ノ色ノ如シ朝服ニエヒ色ト云アリ
今通名フトウト云京師西陣ニ産スルテ上品ト俗ニ

大宮トトウト云アリ 京都ノ産ハ多ク種々緑色紅紫
ノ珠葡萄有之。又一種白色ニ種スルアリ 水晶葡萄
早ニ又紫をノモノアリ 俗クロフトト云 紫有葡萄
又紫をノモノ長キアリ 俗ナガフトト云 馬乳葡萄是
以上三名見 江戸ノ産ハ皆紫をノモノ之葡萄酒ノ法ハ穀
部造藤類ニ見タリ

蔓草

イヌエヒ エヒハル 此刺詰ナリエヒハル
トウ カウニ西国ゴキキ 伊智カブツル 備前ケンゾ若狭
スフトウ 佐後ハ酸味ノヒノ故ニ名ク

野生クマシ冬ノ葉ナク春ヨリ生テ生ス 葡萄葉ニ
似タリ厚子ノ葉背白毛アリ又褐色ナルアリ 嫩葉紫

色ヲ帯ヒテ美ナリ 葉ハ蔓ニ附テ互生 鬚頭蔓アリ
瓜鬚頭蔓ノ如シ 葉ニ尖ニメ 地錦ノ如キモノアリ又構葉
ノ如キモノアリ 其細葉花ヲ同キ種ヲナス 後云ヲ結
田ニ生ハ青ク種々黒ニ南部ニ其ノ葡萄ナシ此実
ヲ採リテ皮揉ラ去リ 煎煎ニ膏ノ如クナラシメ食
用ニス 葉ハ月毛アルヲ以テ乾メ採メハ艾錦ノ如シ之
テ疔瘡ヲ治ス 故ニイボヲトシノ名アリ 然レモ日ヲ
経テ又疔瘡生ス

獼猴桃

ヤニナシ ヤブナシ 美濃
蔓草ナリ 葉形梨ノ如シ 茎赤色ノ互生ニ蔓ノ
皮粘リタレ故ニ紙ヲ抄トキ 粘ニ用ニ葉同ニ実ヲ

朱ノ如ク皮剥ノ如ク斑々アリ肉白色中子アリ芥子
ノ如ク列ヲナス冬ニ至テ熟ヒス味辛山中生スルモノ
ナリ

甘蔗

サトウキヒ サトウメケ サトウノキ サトウケサ

モト琉球ノ産ニ夫ヨリ流麻ヘ後リ今ニテハ尾列長列
ニテ種ニ良美ニテ種レハ甚大ナリ薩列尾列長列ハ
沙糖ヲ取ニ草ノ形蜀黍ノ如ク茎径リ一寸許節アリ
根上ハ節空ニホホ末ニ至リ節間漸々粗ニ今後メハ
集解ノ秋蔗ノ類ニ花実ナレ秋茎肥タルトキ半ヨリ
末ト根ヲ去リ陽地ニ埋ニ翌ニ年三月頃取出レ茎ヲ
横クヘテ種ルトキハ節ヨリ茎ヲ生ス葉ハ蜀黍ノ如ク

沙糖

茎中空處中善ニ種アリ一ハ上ニ云トコロノモノ
ニメ茎ヲ採リ汁ニ搾レ沙糖トナスモノ又一ハ生啖ス
モノニメ集解竟命蔗ナク茎赤シコレハ沙糖ハトレ
ヌモノナリ得候ナレ

割衣ニナスモノヲ沙糖ト云此ハ黒サトウノモノ李時珍
記ノ紫沙糖是之糖而相ハ白サトウ之石蜜冰糖ハ其
コホリサトウ之モノ割衣潤膏南産志天工開物等ニ
見エタリ茎ヲ採リ生ニテ汁ニ搾レツメ冷ナラ
シムルトキハ紫糖トナル又紫糖ニ水ヲ入煉レ糖漏
器トテスヤキノ器ニ上澗ニ下空下底ニ一孔ヲ穿ケ

最初此孔。蓋本ヲツノ至キ黒糖ノ煉シタルヲ器中
入レ上層ニ。炭土^{カク}泥^{カク}ヲ以テ後孔中ノ蓋ヲ被テ下
兼ルニ桶ヲ以テアリケ。皆孔ヨリ出ツ之ヲ糖水ト云
上ニアルモノヲ清糖ト云中ヲ官糖ト云下ヲ膏尾ト
云廣東新語。蓋尾ニ作ル官糖ヲ採リ再々煉シ
復器中ニ入ル。前ノ如シ之ヲ潔白糖ト云。其出ルト
コノ水ヲ潔水ト云。此法元ノ時始ル。陶書曰。元時安
南有黃長石。為宅原糖。宅垣忽壞。壓於漏端
色白異。昔遂獲厚賞。越南國史曰。沙糖古無
白者。人亦不知所以白之之法。後有暹羅糖於土牆
邊。墻崩為土。所壓久而全之。悉變成白。乃知糖

之變白。其妙全在土封。殆天啟之。人不及是。凡
ソ其質土。近キトコノモノアリケ。去テ色潔白糖
上品ナリ

石蜜 コホリサトフ

本十時珍石蜜白沙糖ヲ混ノ一トス。誤レリ石蜜水
糖。同物ニ水糖ヲ造法白沙糖。水ヲ入。毫シ雞卵白
ヲ採リ之ニ攪セ。塵ヲシテ上俾シ。乃煉シ。別器中ニ
入。生竹ヲ截リ。從ニ辟沙糖中置一石。乃凝結ス。取
出シ。生竹ヲ去ル。此ノ天工開物ニ詳ニ
本十時珍石蜜。今云コニヘイトフノ類ニ。廣東
新語曰。廣中市肆。賣者有編籠。窠絲。籠ニ云

手煉成條子而玲瓏者曰糖通吹之便宜者曰吹
糖實心者小曰糖粒大曰糖瓜鑄成者塔人物馬
獸形者曰糖音糖土山之禮多用之祝龜則以糖磚
燕容以糖果者芝麻糖牛皮糖房糖葱糖烏糖
等以為雜食

刺蜜

未詳

附錄

補齋

未詳

果之六 水果類六種

蓮藕

ハスノ子

蓮ト云ハハニ云ノ下ニ藕ト云ハ根ノ下ニ今蓮ノ根名
ナリ蓮品類タレ俗ニ天竺ニ蓮ト云アリ白蓮ニハ葩

辺ニ涼紅ノフクリンアリ得名錦邊蓮也。觀音蓮ト云
アリ近江野洲郡觀音寺ニアリ故ニ名ク花小ニ十葉ノ
カサ子厚ク茎端ニ根生ス得名十葉蓮也。又一至
ニ花ノモノアリ集解並頭者ト是也。又一至ニ花ノ
モノヲ四品ニ十蓮ト云也

蓮下解

睡蓮ハヒツニ有ニノ別物ニ等ノ類ニ全蓮ニテ

カハニハ是亦別物ニ又碧蓮ハ碧色ノモノ備蓮ハ

赤花黃花相雜ニモノ和名ナシ

蓮ニテ釋名ノ石蓮子ハ秋熟ノ為タルモノ今葉鋪

テ石蓮子ト云モノハ一種ノモノニ何物タルヲ知ラス

紅白蓮花

未詳

芡実 仁

池にタシ水面に浮テ生ス銀杏葉ノ如ク厚ク光リアリ
迎鋸齒アリ葉縁リ固ク坐ラナス葉背平ツクレテ
アリ葉下筋葉下之茎有股如蝦股ト是之葉葉間
小白花ヲ開ク後之葉ヲ信ノ四角アリ六角アリ種々後
生ス採テ食用ニス任下筋見タリ本所近道ノモノハ
皆葉之末系ナリ任下筋野邊是之葉之末大ニモノ
ハ任下筋系邊是之世帯園史 其他品類多クシ汝南園史
ニ詳ニ目下ニ品類ナレク之末ヲ乾シタルハ瓜菜ト云世帯
芡実 ミツブキ 子ニハス ケトウハヒ

水中ニ生ス山列廣澤伏見小谷堤多クアリ葉連葉

ニ似テ皺多ク刺アリ荷葉ヨリニ大ニ水面浮フ茎は遠
ニ似テ刺多ク採リ能ク食トス根ハ水底アリ茎ノ長
短ハ水ノ浅深ニヨル茎及根ヲ截レハ紫汁ヲ出ス中
美ニテ嫩茎ヲ採リ食用ニス之ヲ藕類菜ト云正辛六月
頃花アリ深紫色初未々開カルトコト鳥喙ノ如シ故ニ
鴈喙等ノ諸名アリ莖ニテ畏包レ食テ一莖ヲ
開テ一二日モ食テ、アリ形鳥ノ喙ヲ開キタルコトニ
四辨ノ紫花漸ニ重リ四層ニ至ル日ニ向テ開キ花凋ラ
ニ落チス下ノ茎一寸半許ノ間へ大キクフクレテ中実
アリ石榴子ノ如シ褐色葉用ノ芡実是ナリ

烏芋 ヲロケハ井

市ニ多クアリ慈姑ニ似テ皮黒シ生味スルモノ池田中ニ
生ス百葉ニ似テ小ナリ高ナニ四尺許中空虚葱ノ如シ
七月頃茎頭種ノ如キモノヲ生ス長ハ一寸許細ナリ
ノ如キモノ撥根ノ根白クメ長ニ生ズ生シ四方ハ夏迄
秋後至白弱ノ末ニ魁ヲ生ス是烏芋ナリ

慈姑

クハ井ニシロクハ井

洛西東寺ニ多ク種ニ花ハ十キモノ之稀ニ開クモアリ又
別ニ花ヲハ井ト云アリ花ヲハ井ハ食用ニナラス俗ニ之ヲ
ヲモタカト云又十葉ノヲモタカアリ草葉ノモノハ三
辨ノ白花ノ十葉ノモノハ童子最ニ侍レテヲモタカ
ハ雄ニクハ井ハ雌ニ称名帯刀有ハヲモタカハ葉形

家ノ名ルルニ秋名有名前日草ト云ハ古説ニ花ヲ
ハ井ノトトス今古説ニ従フ一種春ノ間ニメケハ井ト
云アリ樺刈吹田村ニ多ク種ニ故ニ吹田クハ井ト云又山
刈蟻カ池河表流ニ等ニ葉ノ幅一分許ノ長一尺
許ノモノアリトハスクハ井ト云又アキナレト云ニ辨ノ小
白花ヲ開ク別ニ得名ナレ種形ナリ

附録諸果

細目ニ一種拾遺一種

皆未詳惟候駱子簡子二種有所考仍錄于下
其斜意欠不録
候駱子 トキハアケヒ 郁子 和名ニ
トキハアケヒヲ以テ之ニ充ツルハ忍菴先生ノ説ナリ

木通。似テ葦厚ク大ニ冬不凋故トキハアケビノ名
アリ下ノ筒子ハ候駱子ノ一名之較荒本竹。野木
瓜ノ名アリ

本草詳説此三卷終

